

# 資源管理型漁業推進総合対策事業\*

抄 録

## － 広域回遊資源調査（ヒラメ） －

吉村 晃一

### 目 的

紀伊水道東部およびその外域を生活圏とする（放流等の調査は主として南部で実施されてきた）ヒラメに関しては、これまでに栽培主導型の観点で補足的に取り上げられた程度で十分な調査がなされていなかった。そこで、資源管理対象魚種として取り組まれているマダイ、ハモ、タチウオに加えて対象魚種を拡大して漁業者自らの資源管理意識の高揚を図るため、平成5～7年度の3年間調査を実施した。この調査結果をもとにして現状把握と問題点を摘出した資源管理指針を作成提示した。指針内容は概略ではあるが、浅海域の保護・体長制限・漁期制限・親魚保護およびこれらの複合的組み合わせを行う方策である。本年度はこの指針内容に基づいて管理計画を策定することになるので、今後の主要市場でヒラメ資源の動向把握のため調査を継続実施した。

### 方 法

調査内容は以下のとおりである。

- 1 体長測定調査：市場においてヒラメの抽出測定
- 2 水揚統計調査：月別・銘柄別ヒラメ漁獲量（金額）、ヒラメ単価、漁獲物の組成
- 3 標本船日誌調査：操業場所、水揚内容（魚種別漁獲量・金額）、油代等経費の記帳
- 4 標識放流調査：産卵後の北上移動

### 結 果

#### 1 体長測定調査

雑賀崎漁協・大崎漁協所属小型底びき船計5隻によるヒラメ体長測定結果を3ヶ月毎（4～6、7～9、10～12、1～3月）に分けて示している。前年と比較すれば漁獲主体の全長30～50cmの中でも全長45cm以上の大型魚の減少が大きかった。

紀伊水道外域では南部町漁協における刺網のヒラメ漁期（12～4月）の体長組成を掲げている。全長60cm以上の漁獲は前年より減少した。

#### 2 水揚統計調査

主要水揚げ市場の雑賀崎・湯浅中央（小底）、比井崎・南部町（刺網）におけるヒラメ漁獲量と単位努力量当たり漁獲量（C P U E）の月別変化を平成5～9年度について記載している。内海域の小底の漁獲が前年並の低水準、同外域の刺網漁獲はほぼ前年と同様に推移した。

また、雑賀崎漁協共同出荷での主要魚種の漁獲動向、単価の推移、および銘柄別漁獲量を示している。ここでは、アカシタビラメの漁獲量が卓越していて本年度も平成7年度以降の高水準（総漁獲量の40%前後）を依然と維持している。

---

\*水産業振興費による。

### 3 標本船日誌調査

小型底びき網船の紀伊水道での月別操業状況（1～4月、5～8月、9～12月）を農林漁区の10分樹目に整理した。

また、小型底びき網船の9.99トン型と4.99トン型による操業状況・魚種組成および諸経費（油代・氷代・箱代）について検討した。

### 4 標識放流調査

天然魚の産卵後の北上を確認するため、1998年2～3月に南部町漁協で行った。標識は背骨型、円盤の色オレンジ、記号番号はWの3桁である。魚体は全長55～77cm、体重1.9～5.9kgのもの27尾を漁協前の砂地海岸へ陸から直接放流した。標識付けの際は卵が自然に放出される個体が多く見られた。放流後の経過は1998年3月末で3尾である。この3尾の再捕例は過去の放流結果と類似した結果で、依然産卵後の北上経路が把握できないでいる。

なお、詳細については「平成9年度資源管理型漁業推進総合対策事業報告書（広域回遊資源）、和歌山県」（平成10年3月）に報告されている。